

Jewellery 貴金属装身具

さまざまな加工を施し、無機質な金属を美しい作品に

貴金属装身具製作の歴史は古く、その加工技術は時代とともに変わってきました。しかし、いずれの時代でも美をかたち作るという点は変わっていません。競技では、18金の板材、丸線材および2種類の金ろう材が競技前日に支給されます。それら指定の材料を使って、材料の切り出し、やすり掛け、ろう付、表面の仕上げまでの全工程を手作業で行い、そのデザインの優美さと仕上がりの綺麗さを競います。美しいものを作り上げる、繊細な手さばきに注目です。

競技について 競技時間：2日／11時間

今年の競技課題は4つに分割されており、課題ごとに採点が行われます。1日目には課題の飾り部分を製作。2日目には前日に製作した課題を組み合わせ、最終仕上げまでを行い、作品を完成させます。また、フリーデザインを起こしてそれを作品に組み入れる内容になっています。完成した作品に対して総合評価が行われます。



<2023年大会 競技課題>

競技職種と生活との関わり

金、銀、プラチナなどの貴金属や宝石を材料として、様々な形に加工されたペンダントや指輪、ブレスレット、ブローチなどを作る職種です。天然の宝石は、その希少性が尊ばれ、色・形状も一つひとつ異なります。自分の指先から、世界で1つだけのジュエリーを生み出せる、そこがこの仕事の最大の魅力だといえます。貴金属装身具製作技能士の活躍の場は、主に宝飾店やジュエリー工房です。きわめて専門的な職人世界ですが、需要の絶えない活発な業界です。

基本の作業を大切に、丁寧かつ迅速な作業で美をかたちにする!

ポイントとなるのは確実な作業力。貴金属の特性を活かし、繊細な装身具をミスなく製作するには、作業の確実性が重要。デザインが優れていることはもちろんですが、迅速かつ丁寧な作業が何よりも大切です。製作に必要な基本的技法の種類や技能は国際大会と同等レベルが求められ、それぞれの工程で一切の妥協は許されません。同時に、デザインをかたちにする応用技術があって、初めて優美な貴金属装身具が完成します。

坂巻 章雄 主査 有限会社坂巻工芸社



みんなも頑張れば、自分の目指すクラフマンになれると思います!

前回大会 金メダリスト!
福島 大志さん
(学)水野学園
専門学校ヒコ・みづの
ジュエリーカレッジ

